

第28期 ビハーラ活動者養成研修会カリキュラム

A. 導入 (2時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師 (肩書等)	時間
1	ビハーラ活動の基本視点	現代の医療の現状と問題点をあきらかにして宗教の関わる事の必要性を考える	福祉・地域(寺院)・医療の各現場で実際に活躍している方がたの話聞く	野村康治 (社会福祉法人龍谷会・至心会理事長)	2

B. 浄土真宗におけるビハーラ活動の意義 (8時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師 (肩書等)	時間
1	ビハーラ活動の意義 (真宗教義)① 「浄土真宗・仏教の 基本的立場」	浄土真宗、仏教とは自己を問い、現世に生きる意味を明らかにすることであるという視点から、ビハーラ活動の基本的姿勢を培う。 長い伝統を持つ真宗教義の視点からではなく、除苦悩法といわれる立場より、浄土真宗・仏教をとらえる。信心獲得者の立場よりの教義展開ではなく未信の者が如何にすれば浄土真宗に気づき得るのかを意識する		(浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)	3
	ビハーラ活動の意義 (真宗教義)② 「浄土真宗のとらえる 死と救い」	釈尊から親鸞聖人にいたるまで死をどのように見つめ、生死の苦しみをこえてきたかについて明らかにする	浄土真宗のとらえる死と救いはかなくもかけがえのないのちの尊さを学び、限りなきいのちの意味を考える	鍋島直樹 (龍谷大学教授)	3
2	実践運動とビハーラ	宗門の活動と展望について、ビハーラ活動の位置づけを明らかにする。	宗門における活動の現状と展望	佐藤浩紹 (重点プロジェクト推進室部長)	2

※ **教科名太枠** は聴講可能講義 <演習>の講義は聴講制度は設けない。但し例外有り

第28期 ビハーラ活動者養成研修会カリキュラム

C. 福祉におけるビハーラ活動の意義(23.5時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師(肩書等)	時間
1	福祉の基礎知識① 「老人介護福祉の現状と理解」	現代の福祉の現状と問題点をあきらかにしてそこに宗教者が関わる事の必要性を考える	高齢化社会と老人福祉及び老人保健等に関する法律や制度・施策について 在宅ケア、施設サービスの体系と具体的展開について	月 孝祐 (社会福祉法人月光園 理事長 グループホーム静園 理事)	2
	福祉の基礎知識② 「認知症サポーター」	認知症について理解する	高齢者の心の変化、性、死の意識について 認知症について	野村廣大 (社会福祉士・ 認知症サポーター キャラバンメイト)	2
	福祉の基礎知識③ 「障害者福祉の現状と理解」	障害とは何かについて、又障害者福祉の目的・法と制度について理解する	障害者の人権について リハビリテーション、ノーマライゼーションについて 在宅サービスと社会参加の促進について	松永真純 (大阪教育大学非常勤講師)	2
	福祉の基礎知識④ 「手話表現」	聴覚障害や手話表現とは何かについて学び聴覚障害者とのコミュニケーションの手段を考える	聴覚障害について 手話表現について 耳の不自由な方に寄り添うために心がけること	内藤良誠 (浄土真宗本願寺派社推協手話表現研究専門部会専門委員)	2
	福祉の基礎知識⑤ 「子どもを支えるビハーラ」	児童養護施設で生活している子どもの実態を通して子どもの問題を考える	児童虐待や貧困などの子どもにおける社会問題 児童養護施設での実際	堀 淨信 (社会福祉法人児童養護施設 光明童園 施設長)	2
	寺院ビハーラ論 「地域コミュニティに果たすビハーラ活動者の役割」	浄土真宗は在家仏教を標榜している。浄土真宗ならではの特色を生かした浄土真宗のみ教えがどのように社会活動に生かされているかを考える	浄土真宗における社会活動の意義 一般社会の活動とは異なる、浄土真宗の特色ある社会活動や事例を考える	成田智信 (宗教法人善了寺デイサービス 還る家とともに代表)	2
2	生活リハビリ講座① 「生活作り・関係作りの実際」	人が最後まで人として暮らしていくための支援とはなにか。「あたり前の生活をする」ための自発性を引き出す介助法について理解する	新しい介護の考え方について安全、安心、自立支援の介護法の実際	能田由依弥 (ビハーラ活動推進員養成研修 専門部会専門委員・理学療法士)	4
	生活リハビリ講座② 「遊بりリテーションの実際」	人が最後まで人として暮らしていくための支援とはなにか。「あたり前の生活をする」ための自発性を引き出す介助法について理解する	心が動けば体も動く一遊بりリテーションの意義と展開。遊bりの達人めざして 実技(ゲーム、グループワーク)		
3	癒しの技法	「癒す」とは、について理解を深める	音楽療法、ハウトケア等	伊藤美恵 (日本音楽療法学会評議員・ 音楽療法士・ 京都文教短期大学非常勤講師)	2
4	ビハーラ活動の理解と実践① 「実習オリエンテーション」	ビハーラ活動を実践するにあたり必要なことを「実習」として学ぶが、実習に先立つオリエンテーションを行う	実習事前学習一記録・報告・考察の内容など実践例より学ぶ	石原 昭人 (ビハーラ本願寺 相談員)	1.5
	ビハーラ活動の理解と実践② 「施設での法話・感話・スピーチ」	施設・病院などでの宗教者としての法話やスピーチについて、内容や話し方を学ぶ	法話・感話・スピーチの考え方と実践(グループワークとコメント)	木曾 隆 (長岡西病院ビハーラ僧)	2
	ビハーラ活動の理解と実践③ 「実習事後の考察」	実習を振り返り、ビハーラ活動者としてのあり方をみつめる	グループワークとコメント ①実習内容について ②実習を通して感じたこと ③問題点の考察 ④今後の課題	花岡尚樹 (あそかビハーラ病院 ビハーラ僧)	2

※教科名太枠は聴講可能講義 《演習》の講義は聴講制度は設けない。但し例外有り

第28期 ビハーラ活動者養成研修会カリキュラム

D. 医療におけるビハーラ活動の意義(13時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師 (肩書等)	時間
1	医療と宗教	科学的な視点に重点を置く医療現場に宗教的生命観を仏教倫理の立場から学ぶ	科学と宗教の生命倫理	早島 理 (滋賀医科大学名誉教授)	2
2	緩和ケア 「医師の立場から」	緩和ケアとは最近の緩和ケアの問題と宗教者の関わる場を学ぶ	緩和ケアの現状と将来	坂口健太郎 (あそかビハーラ病院医師)	2
3	医療における念仏者の役割	緩和ケア病棟における仏教者の活動に学ぶ	ビハーラ僧の活動事例と今後	花岡尚樹 (あそかビハーラ病院ビハーラ僧)	3
4	臨床宗教師の役割	臨床宗教師の活動に学ぶ	臨床宗教師の役割	田中至道 (沼口医院認定臨床宗教師)	2
5	スピリチュアルケアと グリーフケア	人間のもつ根源的苦悩、生きる意味、死の行方など今のスピリチュアルケアの現状を学ぶ 悲嘆のケアのあり方について学ぶ	根源的苦悩への関わり ターミナルケア 悲嘆のケア	打本弘祐 (龍谷大学准教授)	2
6	「患者・家族の立場から」	理論ではなく、実際の患者さんやご家族の体験を通し、病気の受け止めやご家族の思いを知り、ケアのあり方について学ぶ	がんを患っておられる患者さんや、大切な方を看取られたご家族の生の体験を聞く	患者さん、ご家族	2

※ **教科名太枠** は聴講可能講義 《演習》の講義は聴講制度は設けない。但し例外有り

第28期 ビハーラ活動者養成研修会カリキュラム

E. カウンセリングとビハーラ (21時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師 (肩書等)	時間
1	カウンセリング入門と実習① 「臨床心理学入門」	カウンセリングを理解するための前提となる臨床心理学の成立経緯と基本理念を学ぶとともに、現代においてその理念をもとに実践されるカウンセリングの意義について考える。	講義に加えて、エンカウンター・グループ実習を行いグループによるコミュニケーションのあり方を学ぶとともに、臨床心理的地域援助活動としてのビハーラを実践していくために何が必要かも考える。	滋野井一博 (龍谷大学教授・臨床心理士)	3
	カウンセリング入門と実習② 「心理療法とは」	臨床心理学の実践活動としての心理療法には、大きく分けると3つの流れがある。本講義では、その3つの流れ(精神分析療法、認知行動療法、クライエント中心療法)について概観するとともに、その実際について紹介し、人間理解と対人援助の方法について考えていきたい。	講義に加えて、心理療法の3つの流れについて受講生のみなさんに考えていただく課題を提供し、意見を発表しあうことにより、ビハーラ活動における心理療法の活かし方について検討する。	児玉龍治 (龍谷大学教授・臨床心理士)	3
	カウンセリング入門と実習③ 「カウンセリングについて」	カウンセリングを理解するため、受容と共感といったカウンセリングマインドやカウンセリングプロセス等について詳述するとともに、カウンセリングにおける傾聴のあり方について考える。	講義に加えて、カウンセリングの基本となる事項について実習を通して学習する。特に傾聴の実践に必要な姿勢や言葉がけといったコミュニケーションを学ぶ。	小正浩徳 (龍谷大学准教授・臨床心理士)	3
2	ビハーラカウンセリング①	数多くのカウンセリングの中に、浄土真宗(仏教)に特化したカウンセリングとしてビハーラ(真宗)カウンセリングがある。欧米ではパストラル(教会)カウンセリングに該当するが、ここでは、いのち(生命観・生死観・人間観)について、真宗に基づくカウンセリングの立場から考える。	浄土真宗(仏教)の立場から、生きる意味(いのち)への問いかけを深めるとともに、生老病死の苦悩に直面する人々とともにあるカウンセリングとは何かについて、ターミナルケアやグリーフケアにおける実践のあり方を考えたい。		3
	ビハーラカウンセリング②				3
3	グリーフケア	日常の寺院活動におけるビハーラカウンセリングは、ターミナルケアだけでなく、グリーフ(悲嘆)ケアも必要なことである。そこでここでは、グリーフケアについてカウンセリングの立場から考えてみたい。	グリーフケアを適切に行うため何が必要かを考えるとともに、カウンセリングにおけるこれらへの援助のあり方を寺院の立場とともに考える。	黒川雅代子 (遺族会「ミトラ」代表・龍谷大学教授) 中田三恵 (NPO法人 京都自死自殺相談センター グリーフサポート委員長)	3
4	カウンセリングと ビハーラのまとめ	ビハーラ活動におけるカウンセリングの必要性を再度考え直すとともに、カウンセリングの意義についても考察する。また、カウンセリングの講義で学んだことや実習で体験したことを、それぞれの立場より自分なりにまとめることを目的とする。	各講義や実習についての意見を発表し合うことにより、今後の望ましいビハーラカウンセリングのあり方を検討する。		3

F. まとめ (3時間)					
項目	教科名	目的	内容	講師	時間
1	研修の最後に思いを語る時間	ビハーラ活動者養成研修会を今後により有意義なものとするため、最後に自分達の思いを語る時間を設け、研修総括とする	本研修を受講し、受講前と受講後の気持ちの変化についてお互い語り合う。そこで、ビハーラ(真宗)カウンセリングにおいて真宗教義を生かしていくためにどうすればよいかなどを考えるとともに、各人の今後の活動計画などを話し合う		3

※ **教科名太枠** は聴講可能講義 <演習> の講義は聴講制度は設けない。但し例外有り